

特別講演

第1会場 13:00~14:00

## 電気生理学・3Dイメージングが開くカテーテル・アブレーションの新時代

〔座長〕野上 昭彦

横浜労災病院不整脈科

奥村 謙

弘前大学医学部循環呼吸腎臓内科学

最近の医用工学の発展・進歩により心房細動（AF）を含むほとんどの不整脈がカテーテルアブレーション（CA）で根治可能な時代を迎えた。この新時代のCAには以下の3つの要素が要求される。

第一はentrainmentを含む電気生理（EP）の知識と解析能力であり、発症機序診断の基本であるとともに至適アブレーション部位の決定に不可欠である。第二はカテーテル技術で、ガイドワイヤーの支援なく心腔内のあらゆる部位に的確かつ安全に電極カテーテルを進める技量が求められる。第三は3次元（3D）マッピングの活用で、20世紀には解析不能であった複雑頻拍の機序診断とともに解剖学的情報と不整脈基質に基づいた3DイメージガイドCAが標準となるだろう。これら3要素は密接に関連しており、これからアブレーション治療に関わる若手不整脈専門医がこれらを習得・修練するシステム構築が必要となるであろう。

AFアブレーションに関して述べると、その基本は肺静脈隔離であり、解剖学的アプローチによる広範囲肺静脈アブレーションのみでなく、左房肺静脈間の完全両方向性ブロックを電気生理学的に確認する必要がある。AFアブレーションのエンドポイントの設定は施設、術者により異なるが、一般にはAF誘発性の消失とすることが多い。そのためしばしば左房線状アブレーションやCFAEアブレーションが追加されるが、これらは催不整脈的に作用する。AFから心房頻拍や左房粗動への移行の多くは医原性であることを認識し、上記3要素による対応が必要となる。3DイメージガイドCAは今後も進化を続けると思われるが、電気生理から発想されるイメージングが診断・治療に重要となることを強調したい。

ランチョンセミナー3

第1会場 12:00~13:00

カテーテル・アブレーションと薬物療法～不整脈ハイブリット療法の役割～

〔座長〕中里 祐二

順天堂大学浦安病院循環器内科

小林 義典

東海大学医学部附属八王子病院循環器内科

共催：バイエル薬品株式会社

ランチョンセミナー4

第2会場 12:00~13:00

心室性不整脈のカテーテル・アブレーション（仮題）

〔座長〕鵜野起久也

東京医科大学八王子医療センター循環器内科

副島 京子

杏林大学医学部附属病院循環器内科

共催：フクダ電子株式会社